

平成 24 年度に係る部局達成状況評価

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| 1. 附属図書館 | 27. 低温センター |
| 2. 文学研究科・文学部 | 28. 超高圧電子顕微鏡センター |
| 3. 人間科学研究科・人間科学部 | 29. ラジオアイソトープ総合センター |
| 4. 外国語学部 | 30. 環境安全研究管理センター |
| 5. 法学研究科・法学部 | 31. 国際教育交流センター |
| 6. 経済学研究科・経済学部 | 32. 生物工学国際交流センター |
| 7. 理学研究科・理学部 | 33. 極限量子科学研究センター |
| 8. 医学系研究科・医学部（医学科） | 34. 太陽エネルギー化学研究センター |
| 9. 医学系研究科・医学部（保健学科） | 35. 総合学術博物館 |
| 10. 医学部附属病院 | 36. 保健センター |
| 11. 歯学研究科・歯学部 | 37. 臨床医工学融合研究教育センター |
| 12. 歯学部附属病院 | 38. コミュニケーションデザイン・センター |
| 13. 薬学研究科・薬学部 | 39. 金融・保険教育研究センター |
| 14. 工学研究科・工学部 | 40. 科学教育機器リノベーションセンター |
| 15. 基礎工学研究科・基礎工学部 | 41. グローバルコラボレーションセンター |
| 16. 言語文化研究科 | 42. 日本語日本文化教育センター |
| 17. 国際公共政策研究科 | 43. 環境イノベーションデザインセンター |
| 18. 情報科学研究科 | 44. ナノサイエンスデザイン教育研究センター |
| 19. 生命機能研究科 | 45. 知的財産センター |
| 20. 高等司法研究科 | 46. 核物理研究センター |
| 21. 連合小児発達学研究科 | 47. サイバーメディアセンター |
| 22. 微生物病研究所 | 48. レーザーエネルギー学研究センター |
| 23. 産業科学研究所 | 49. 免疫学フロンティア研究センター |
| 24. 蛋白質研究所 | 50. 全学教育推進機構 |
| 25. 社会経済研究所 | 51. 学際融合教育研究センター |
| 26. 接合科学研究所 | |

達成状況評価書(平成24年度)

部局名: 附属図書館

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、総合図書館でグローバル・コモンズを設置、外国学図書館でラーニング・コモンズ「るくす」を開設するとともに、就職関連参考図書を総合図書館・理工学図書館のキャリア支援図書コーナーに設置し広く貸出しを行うなど積極的に取り組み、大学の年度計画の達成に貢献している。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 該当なし。 【特記事項】 該当なし。 【留意事項】 該当なし。
3. その他 (大学の年度計画: 11～16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、リポジトリの累積登録件数、アクセス数ともに大幅に増加し、教育研究成果のグローバルな発信に寄与するとともに、大阪府内の自治体との新たな連携により、遺跡発掘報告書リポジトリ事業の充実が図られ、多くの報告書の新規登録がなされるなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17～29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、機関リポジトリ構築事業の継続などに積極的に取り組んでいる。開館日数、開館時間、入館者数、貸出冊数についても昨年度より増加するなど成果が上がっており、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、グローバル・コモンズやラーニング・コモンズ「るくす」の開設とそれを利用した学習支援に力を入れるとともに、機関リポジトリ構築事業の継続など積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名:文学研究科・文学部

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、ホームページの改訂、英語版アドミッションポリシーの改訂、入学者選抜区分・入学試験成績と卒業論文成績の追跡調査、『大阪大学大学院文学研究科外部評価報告書2011に於いて』の刊行など積極的に取り組んでおり、大学の年度計画の達成に貢献している。また、エラスムス・ムンドゥス・マスタープログラムに参加・推進するとともに、教員交流も活発に行うなど積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、「卓越した大学院拠点形成支援金」(文化形態論に向けた派遣プログラム)を獲得し、大学院学生を海外に19名派遣して国際的視野を有する若手研究者の育成を図る一方、これまで知られていなかったイタリアを中心とする初期近代ヨーロッパの「建築」「記憶術」「百科全書主義」の創造的関係の解明に取り組んだ研究が第2回齋藤眞賞を受賞するなど特筆すべき成果を挙げ、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11～16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、芸術系ブロックを中心に、芸術・アートを軸に据えた社会連携型の教育プログラムを構築し、また国内外の芸術系諸機関・大学・自治体・企業等との社会連携を推進するなど積極的に取り組んでいる。また、「卓越した大学院拠点形成支援補助金」により、「文化形態論研究に向けた派遣プログラム」及び「コンフリクトの人文科学国際研究教育拠点」の2つのプログラムを実施し、前者では大学院生19名を、後者では6名を国内外に研究調査のために派遣するなど評価できる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17～29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、競争的外部資金を新規に獲得した教員及び継続して獲得している教員に対して運営費交付金を割増配分するなど積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、ホームページの改訂、英語版アドミッションポリシーの改訂、入学者選抜区分・入学試験成績と卒業論文成績の追跡調査、『大阪大学大学院文学研究科外部評価報告書2011に於いて』の刊行など積極的に取り組んでおり、大学の年度計画の達成に貢献している。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名: 人間科学研究科・人間科学部

項 目	コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1～7)	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、英語による人間科学コース用の共通教育科目を一般学生にも開放したほか、卓越した大学院拠点形成支援補助金に採択された結果、RAを25名雇用するなど、学生のキャリア形成に役立つ取り組みを積極的に実施しており、これら各種取り組みは大学の年度計画の達成に貢献している。また、博士課程教育リーディングプログラム「未来共生イノベーター博士課程プログラム」の教育プログラムの策定において、主導的役割を果たし、未来戦略機構第5部門の設立に貢献したことは大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8～10)	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、最先端ときめき研究推進事業「バイオサイエンスの時代における人間の未来」について海外での成果発表を重点的に進めるとともに、部局独自の研究支援としてヒューマンサイエンスプロジェクトを継続実施するなど大学の年度計画の達成に貢献している。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11～16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流 【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、人間科学部創立40周年を記念し、学外からの参加者も得て、震災後のコミュニティ復興に関わるシンポジウムを開催したほか、教員免許状更新講習「教師に必要な新たな気づきと元気の共有」(必修領域)を実施し、小中学校教員のリカレント教育のニーズに応えるなど積極的に取り組んでおり、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17～29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況 【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、行動学系、社会学系、人間学系に続き、教育学系、グローバル人間学系で研究倫理審査体制を整備し、研究科全体での研究倫理審査体制を確立するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況	【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、英語による人間科学コース用の共通教育科目を一般学生にも開放したほか、卓越した大学院拠点形成支援補助金への採択、博士課程教育リーディングプログラム「未来共生イノベーター博士課程プログラム」への貢献など積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名:外国語学部

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、少人数ゼミにおいて、学生のデザイン力を涵養するため模擬教壇実習や留学成果発表会等を実施するなど、大学の年度計画の達成に貢献しているほか、学部共通科目「異文化理解演習」を開講し留学生との積極的な交流を行うなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 該当なし。 【特記事項】 該当なし。 【留意事項】 該当なし。
3. その他 (大学の年度計画: 11～16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、外国語学部同窓会の支援・協力を得て語劇祭を実施し、語学教育の成果を公表するなど積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17～29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、世界言語研究センターと統合した新たな言語文化研究科が外国語学部の幹事研究科となり、言語研究と教育の一体化が進められるなど、特筆すべき取り組みがなされている。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、組織変更の他、各種委員会のより効果的な運営を行うため、学部長のリーダーシップを強化する目的で委員を学部長指名とし、大学院における各種委員会と合体させた上で規定整備を行うなど、適切に実施している。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名:法学研究科・法学部

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、成績評価の適正化と客観性を担保するため、成績評価ガイドラインを見直すとともに、試験の講評の内容を統一するなど特筆すべき取り組みを行っており、大学の年度計画の達成に貢献している。また、法学科、国際公共政策研究科共通の英語による6つの授業科目を開講するとともに、積極的な受講の呼びかけにより、一定の履修者を確保するなど積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、日独の学術交流に貢献した人に与えられるジーボルト賞の受賞のほか、共同研究推進のための懇談会（サパーミーティング）の実施など積極的に取り組んでおり、大学の実績として評価できる。これに関連し、すでに実施されていた「スタッフ・ミーティング」に、共同研究の成果発表という性格が新たに付与されるなど、充実した取り組みとして実施されている。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11～16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、外部実務専門家による公開講義やセミナー等を昨年度の2倍弱となる計22回開催し、約850名が参加したほか、日本初の試みとして、内閣府行政刷新会議の協力を得て「大学院・学部生による公開模擬事業仕分け」を実施するなど積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17～29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、法学科、国際公共政策研究科共通の英語による6つの授業科目を開講するとともに、積極的な受講の呼びかけにより、一定の履修者を確保するなど積極的に取り組んでいる。また、成績評価の適正化と客観性を担保するため、成績評価ガイドラインを見直すとともに、試験の講評の内容を統一するなど特筆すべき取り組みを行っている。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名:経済学研究科・経済学部

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、オープン・ファカルティ・センター（OFC）と同窓会の協力を得て学部生に対するキャリア形成支援、大学院博士前期課程でのインターンシップの正規科目化を実施するなど、大学の年度計画の達成に貢献している。さらに、学部学生の学術論文作成へのインセンティブを喚起するための懸賞論文制度を活性化するなど適切に実施している。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、グローバルCOEプログラム「人間行動と社会経済のダイナミクス」に関連して、セミナー45回、コンファレンス13回、国際コンファレンス4回開催するなど、国内研究拠点形成に努め、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11～16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、オープン・ファカルティ・センター（OFC）を核として公開講義、講演会、シンポジウム等を開催し、一般市民・社会人に対して学習機会を提供したほか、社会人教育の推進に積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17～29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、部局内の各種委員会委員長等を構成メンバーとし、研究科長のリーダーシップの下に中長期的な課題・戦略を検討する中長期委員会を組織し、教育研究活動及び業務運営について検討するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、学生ニーズの多様化に対応するため、これまでの経済学専攻と政策専攻を改組して経済学専攻に統一し、経済学コース、応用経済学コース、歴史コースを置くなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名: 理学研究科・理学部

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、一般入試（前期）挑戦枠、研究奨励A0入試、国際科学オリンピックA0入試という新しい学部入試制度を実施するとともに、学部コア科目を着実に実施するため、理学教育カリキュラム反省会を開催し、コア科目の一部改訂の効果やコア科目のあり方について検討するなど積極的に取り組んでいる。 さらに、国内学生と留学生の交流を促進するための国際交流サロンの新規設置、イングリッシュカフェの開催、国際化拠点整備事業（大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業）など適切に実施するとともに、オナーセミナー受講者から全国の自主研究コンテストにて複数の受賞者を出すなど成果が上がっている。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、「サブアトムック科学研究拠点」計画での大強度ミュオンビーム源で最大限に可能な陽子ビームを用いてミュオン生成を定量的に確認することができ、また基礎理学プロジェクト研究センターにおいて超軽量の宇宙観測用遠赤外線干渉計望遠鏡構造体を実現するなど、特筆すべき成果を挙げ、大学の実績として評価できる。また、4名の女性研究者を雇用し、さらにテニュアトラック制度の実施し平成25年度から2名を雇用継続可能な准教授として採用することを決定するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11～16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、高校や高校教員との交流連携・セミナー・意見交換会など（総数37件、平成23年度より倍増）を行い、また若手研究者インターナショナルトレーニングプログラム（ITP）で大学院生7名を海外に派遣し、国際共同研究や国際学会への参加を援助するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17～29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、博士後期課程RA経費、学生提案型研究計画支援経費に対する研究科長裁量経費による支援を行うとともに、研究科長のリーダーシップのもと、執行部を主体とした企画推進室（計画評価グループ、教育推進グループ、研究推進グループ、広報企画グループで構成）の設置準備を進め、運用を開始するなど積極的に取り組んでおり、大学の年度計画の達成に貢献している。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は特筆すべき進捗状況にあると判断できる。引き続き、現行の取り組みを維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、新たな入試選抜方法の実施のほか、研究科長裁量経費によって、若手の萌芽的研究を支援し、研究環境を充実するなど、特筆すべき取り組みを行っている。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名: 医学系研究科・医学部(医学科)

項 目		コメン
1. 教育 (大学の年度計画: 1~7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、選択実習において海外での臨床実習、地域医療実習、基礎医学研究など学生のニーズにあわせた体験型実習を推進するとともに、栄養士と薬剤師の参加による臨床導入実習の実現により多職種連携による医療の重要性を認識させる機会を作ったほか、臨床教授枠を232名まで増枠させ、プライマリーケア及び地域医療教育を目的とした関連病院での臨床実習の充実を図るなど積極的に取り組んでいる。また、基礎医学研究者の育成を目指したMD研究者育成プログラムのさらなる推進、博士課程教育リーディングプログラム「生体統御ネットワーク医学教育プログラム」の教育の開始、学生専用自習室の設置など適切に実施し、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8~10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、血中の老化因子の同定 (Cell 誌)、神経細胞の再生機構や脳内での神経細胞の保護の解明 (Nature Medicine誌, Nature Neuroscience誌)、心不全の新たな発症機構の発見 (Nature誌)、オートファゴソーム形成機構の解明 (Nature誌) などの成果が国際的にも高く評価され、各種新聞、テレビでも報道され、高松宮妃癌研究基金学術賞、日本医師会医学賞、持田記念学術賞などを受賞するなど特筆すべき成果が上がっている。さらに、グローバルCOEプログラムの着実な推進、博士課程教育リーディングプログラムの活動を支援し、未来戦略機構の中に他の部局と連携し創薬基盤科学研究部門を設置することに尽力するなど積極的に取り組み、大学の実績として評価できる。また、生命科学研究独立アブレンティスプログラムに基づき、1名のデニユア特任准教授(常勤)の移行審査を実施し、デニユア准教授ポストへ移行することを決定するなど適切に実施している。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11~16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、産学官との連携の推進によって共同研究60件、受託研究8件を契約し、寄附講座を27件受け入れ、50件の特許出願を行う、社会人入学を推進し、社会人受入可能講座数を32講座から46講座に増加するなど適切に実施している。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17~29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、「早期・探索的臨床試験拠点整備事業」を推進する中で、新たに(独)医薬品医療機器総合機構との間で連携大学院を設置したほか、大阪大学未来基金に「医学系研究科・医学部教育研究事業」を設け、教職員、卒業生等から12,000千円超の寄附を受入れ、学生支援のために運用するなど積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は特筆すべき進捗状況にあると判断できる。引き続き、現行の取り組みを維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、基礎医学研究者の育成を目指したMD研究者育成プログラム、グローバルCOEプログラムを着実に推進するとともに、博士課程教育リーディングプログラムの活動を支援するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名: 医学系研究科・医学部(保健学科)

項 目	コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1～7)	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、博士課程教育リーディングプログラム「生体統御ネットワーク医学教育プログラム」の教育に寄与するとともに、がんプロフェッショナル養成基盤推進プランにおいて、他6大学と共同で遠隔講義システムを用いた講義を実施し、また連携大学各コースの大学院生40名が参加する合同合宿研修を開催するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8～10)	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、ツインリサーチ研究に参画し、脳磁図を用いた双生児脳の機能解析を行うとともに、啓発を目的に一般市民を対象に「ふたごの集い」を開催し、約80組の成人双子が参加し、意見交換を行うなど積極的に取り組んでいる。また、脳磁計による神経義手制御とALS患者への適応の研究によって日本医師会医学研究奨励賞を受賞したほか、グローバルCOEプログラムに関連した英語論文がインパクトファクターの高い雑誌に掲載されるなど、成果が上がっており、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11～16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流 【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、共同研究(24件)、受託研究(8件)、共同研究講座(3件)、寄附講座(2件)、奨学寄附金(51件)の受け入れ、各種セミナーやシンポジウムによって研究成果の社会への還元を行うなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17～29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況 【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、国内28件、国外1件の教員の研修派遣を行うとともに、がんプロフェッショナル養成基盤推進プランでは、医師、看護師、メディア関係者及び産業界からなる外部委員による外部評価を実施するなど適切に実施している。また学科長裁量経費で簡易式の投票機を導入し、学科会議における各種投票の迅速化を図った結果、従来よりも2分の1程度時間が短縮するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況	【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、ツインリサーチセンターの活動によって、テレビ、ラジオなどのマスコミと国際学会において注目されるなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名: 医学部附属病院

項 目	コメント
附属病院に関する項目 (大学の年度計画: 14~16)	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 (1) 教育・研究面 平成24年度は、未来医療センターと臨床試験部とを発展的に統合し、先進的医療技術の開発、評価をする部署として、8月に未来医療開発部を設置することにより、トランスレーショナルリサーチの支援体制を構築したこと、大学病院連携型専門医療養成事業による循環型の医師キャリア形成システムが順調に構築されていること、現場の医療従事者の医療安全能力の向上のための視聴覚教材を複数の医療機関に配布したことなど大学の年度計画の達成に貢献している。 (2) 診療面 平成24年度は、他施設との遠隔相談システムの接続が実現し、不足する高度な診療リソースを有効に補う遠隔診療支援を行ったほか、呼吸器センターとてんかんセンターを設置し、また、改正臓器移植法に基づき、厳格な脳死判定基準を適用して、小児をドナーとする心臓移植手術を国内で初めて行い成功するなど、大学の年度計画の達成に貢献している。 (3) 運営面 平成24年度は、平成23年度と比較して約9億円の増収を実現し、過去最高の収入額を更新した結果、平成24年度から交付を受けないこととされている病院運営費交付金削減の影響を受けることなく健全な病院運営を行うなど、特筆すべき取り組みを行い、大学の実績として評価できる。また、災害対策室、患者サービス企画室を設置するとともに、平成25年4月に、病院の施設整備に対する取り組みを推進する病院再開発企画整備室を設置するための準備を行うなど積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 売店及び食堂については、随意契約の見直し計画を策定し、改善を図っていることは評価できるが、今後も計画に示されたスケジュールに従い、着実に実行されたい。
全体の項目に関する達成状況	【中期計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名:歯学研究科・歯学部

項 目	コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1～7)	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、歯科保存学、口腔治療学、歯科補綴学第一、歯科補綴学第二においてPBLを実施し、体験型教育を中心とした口腔総合医療学を新たに設置するとともに、大学院生の国際性を育むために、1年生の入学定員の5%程度を海外語学研修に参加させるという計画で指導を行った結果、目標を上回る成果を上げるなど、大学の年度計画の達成に貢献している。また、学部学生の海外派遣を平成25年度より「国際歯科学演習」(選択科目)とし、単位化することを決定するなど積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8～10)	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、米国国立がんセンターとの共同研究で、ユビキチン調節因子ががん抑制機能を持つことをNature Medicine誌に発表し、また医学部との共同研究によるオートファゴソーム形成に関する論文をNature誌に発表するなど積極的に取り組み、大学の実績として評価できる。また、テニュアトラック制度の活用や研究倫理に関する講演会の実施など積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11～16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流 【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、共同研究(7件)、受託研究(3件)、奨学寄附金(68件)の受け入れ、各種セミナーやシンポジウム、とくに市民フォーラム「健康長寿は口から」によって社会貢献活動を推進するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17～29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況 【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、大学院の専攻を「統合機能口腔科学専攻」と「分子病態口腔科学専攻」の二専攻から「口腔科学専攻」の一専攻に改編するなど積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況	【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、教育の国際化や専攻の改編など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名:歯学部附属病院

項 目	コメント
附属病院に関する項目 (大学の年度計画: 14~16)	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 (1) 教育・研究面 平成24年度は、臨床研修指導医講習会、スタッフディベロップメント(SD)講習会を開催した取り組み等が評価され、臨床研修の外部評価において、すべての項目で最高位の評価を得るとともに、現在の歯学・医学では治療の難しい口腔疾患のデータベース構築を行い、原因究明と治療法の開発をめざすプロジェクト「口の難病から挑むライフイノベーション」研究事業を推進するなど積極的に取り組み、大学の年度計画の達成に貢献している。 (2) 診療面 平成24年度は、近未来歯科医療センターにおける先進歯科医療を推進するとともに、「口唇裂・口蓋裂・口腔顔面成育治療センター」の設置の承認を得て、その準備を完了するなど積極的に取り組み、大学の年度計画の達成に貢献している。 (3) 運営面 平成24年度は、健全で持続可能な病院経営を図るために、医療安全、感染制御と臨床研修に関しては病院相互評価を受け、また外部委員で構成されるアドバイザリーボードを開催し、指摘、助言を受けた項目を病院運営に反映させるなど、大学の年度計画の達成に貢献している。また医員配分委員会を開催し診療実績等に応じた効率的な医員配分、専修医の配分を行うなど積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
全体の項目に関する達成状況	【中期計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名:薬学研究科・薬学部

項 目		コメ ント
1. 教育 (大学の年度計画: 1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、先導的医療人育成に向けた取組（PharmDコース）を整備するとともに、部局独自のFDを年13回（参加者522名）開催し、また創成薬学専攻博士前期課程の入試について検証し、特別選抜や試験科目、実施時期等について平成26年度入試から大幅に変更することを決定するなど、積極的に取り組み、大学の実績として評価できる。 また、企業から資金を得て海外派遣事業を行い、学生17名を海外に派遣し、同窓会との連携により大阪大学薬友会賞を新設し、研究発表会での審査を経て学生表彰を行うとともに、体験型学習やPBLを取り入れた科目を開講し多くの受講者を得るなど積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、「創薬推進研究拠点形成」WGにおいて、最先端研究基盤事業「化合物ライブラリーを活用した創薬等最先端研究・教育基盤の整備」、および創薬等ライフサイエンス研究支援基盤事業「大型創薬研究基盤を活用した創薬オープンイノベーションの推進」が採択されるとともに、厚生労働省革新的医薬品・医療機器・再生医療製品実用化促進事業「核酸医薬の臨床有効性、安全性の評価方法」および文部科学省特別経費プロジェクト「創薬プロセスの架け橋となるiPS細胞基盤技術構築プロジェクト」に申請・採択されるなど、大学の年度計画の達成に貢献している。また、研究推進会議により、研究支援のためのFD・研究科セミナー（11回）を実施するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11～16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、薬学部公開講座（参加者数のべ126人）を学生は参加費無料とするなど工夫した上で開催するとともに、薬学部卒業研修会（7回開催、参加者数のべ461人）、及びキャリアアップレクチャー（6回開催、参加者数のべ163人）を開催するなど積極的に取り組んでおり、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17～29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、創成薬学専攻博士前期課程において入学定員の見直し（15名増）を行い、入学定員の適正化を図うとともに、機動的かつ戦略的な執行部体制を構築するなど、積極的に取り組み、大学の年度計画の達成に貢献している。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、外部資金の獲得等によって、学生の海外派遣、研究活動の推進など積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名:工学研究科・工学部

項 目		コ メ ン ト
1. 教育 (大学の年度計画: 1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、博士課程教育リーディングプログラム等を通じて、課題解決型学習を実施する体制を整えるとともに、女子学生を対象とした広報活動の実施、学部3年生対象のe-learningによる専門英語教育教材を全学科向けに構築してハード・ソフトの両面で運用できるシステムを完成するなど大学の計画の達成に貢献している。また、アメリカやオーストラリアの大学において学部生・大学院生向けの海外研修プログラムを実施し、グローバルな視点を有するリーダーとなる技術者・研究者の育成を図るなど積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、紫綬褒章の受章や科学技術分野の文部科学大臣表彰・科学技術賞(研究部門)および若手科学者賞の受賞など特筆すべき成果が上がっている。また、グローバルCOEプログラムの推進、研究者の競争的研究資金獲得支援の結果、4専攻等が「卓越した大学院拠点形成支援補助金」を受けるとともに、テニュアトラック制度を継続実施するなど積極的に取り組んでいる。 また、(独)日本学術振興会の国際共同研究教育パートナーシッププログラム(PIREプログラム)として採択された結果、大学間学術交流協定校である米国・パデュー大学との間で国際共同研究を実施するなど、大学の年度計画の達成に貢献している。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11～16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、共同研究講座が17、協働研究所が4となり、企業から学内で活動する研究者が170余名となり、第5回共同研究講座シンポジウムを開催し、共同研究講座制度の普及に貢献するなど積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17～29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、研究科長裁量経費として2,950万円を緊急性と重要性の高い事業に優先的に配分するなど、実績を上げている。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、博士課程教育リーディングプログラムの推進、紫綬褒章等の受賞、グローバルCOEプログラムの推進や、研究者の競争的研究資金獲得支援の結果、4専攻等が「卓越した大学院拠点形成支援補助金」を受けるとともに積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名:基礎工学研究科・基礎工学部

項 目		コメ ント
1. 教育 (大学の年度計画: 1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、国際化拠点整備事業（大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業）へ新たに5科目を提供するとともに、博士課程教育リーディングプログラム「インタラクティブ物質科学・カデットプログラム」の採択への貢献、留学生向けの部局教育プログラム及び奨学金に関するパンフレットの中国語版の作成、インターンシップの実施など積極的に取り組み、大学の年度計画の達成に貢献している。また、新たに企画したタイ海外研修にオーナー学部学生（優秀な2年次学生）9名が参加したほか、障害をもつ学生の学習支援のハード面として新たな設備、スペースと機器の整備を、ソフト面として特別研究履修に於ける安全確保のための研究指導補助者を配置するなど積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、紫綬褒章の授与、日本学術振興会賞の受賞など特筆すべき成果を上げるとともに、（独）日本学術振興会の二国間交流事業・国際共同研究事業・研究拠点形成事業の実施、グローバルCOEプログラムの推進など、積極的に取り組み、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11～16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、カリフォルニア大学バークレー校、トロント大学、スウェーデン王立工科大学、シンガポール国立大学との間で、Engineering Science に関わる国際交流を目指す国際コンソーシアム“International Engineering Science Consortium”（基礎工学国際コンソーシアム）を設立するなど、積極的に取り組んでおり、大学の実績として評価できる。また、入試広報活動を行うため「基礎工学研究科ハノイ学術交流オフィス」を新規開設するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17～29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、間接経費等を、研究科長のリーダーシップの下に基礎工学研究科独自の複合学際研究領域支援（未来研究ラボシステム）やプロジェクト研究の基盤整備、競争的資金獲得推進経費に充当するなど、適切に実施している。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、国際化拠点整備事業（大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業）、博士課程教育リーディングプログラム、（独）日本学術振興会の二国間交流事業・国際共同研究事業・研究拠点形成事業の実施、グローバルCOEプログラムの推進など積極的に取り組んでおり、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名:言語文化研究科

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、大学院高度副プログラム「言語情報処理の手法と展開」を継続して開講し、「文化と植民地主義」について平成25年度からの新規開講を決定したほか、高度教養教育科目として研究科の授業10科目を提供するとともに、平成25年に上級外国語8科目を追加提供するなど積極的に取り組んでいる。また、日本語・日本文化専攻の新設、年8回(参加者延べ108名)の部局独自のFDの実施など、積極的に取り組み、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、6名の外国人特任教員を採用し、女性教員については、平成24年度に助教1名、平成25年に新任教員10名のうち、女性教員4名の採用を決定するなど、大学の年度計画の達成に貢献している。また、言語文化学の基礎的研究を推進するため「言語文化共同プロジェクト」を17件立ち上げ、これらに予算配分を行うなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11～16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17～29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、旧世界言語センターの教員全員を研究科に所属させるとともに、日本語・日本文化専攻を新設したほか、言語社会専攻の拡充再編を図るなどして、新しい教育研究組織を発足させたことは、特筆すべき取り組みであり、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、教育研究組織再編のメリットを活かし、概算要求事項や博士課程教育リーディングプログラムの採択・実施に貢献するなど、特筆すべき取り組みがなされている。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名:国際公共政策研究科

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、博士課程教育リーディングプログラム「未来共生イノベーター博士課程プログラム」の実施・推進において、中心的な役割を果たしたことは大学の実績として評価できる。また、国連政策研究センターを活用し、国際機関人材育成教育や国連インターン派遣、国際機関リクルートミッションの受け入れるなど、特筆すべき取り組みを行っている。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、ザンビア大学、フリーステート大学（南アフリカ）、国際関係センター（タンザニア）等との国際共同研究、Institute for Foreign Policy Analysisとの共同研究、世界銀行との国際共同研究の実施など、積極的に取り組み、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11～16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、国際交流基金関西国際センター、大阪国際交流センター、大学コンソーシアム大阪、赤十字国際委員会、外務省、防衛省防衛研究所、稲盛財団、笹川平和財団、コンラード・アデナウアー財団、ドイツ総領事館等の内外の産学官連携機関との共同プロジェクトなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17～29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、国内外の産官学の諸機関と連携し、教育・研究・社会連携に積極的に取り組み、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名:情報科学研究科

項 目	コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1～7)	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、博士課程教育リーディングプログラムを基盤にして、情報科学と生命科学、認知・脳科学、ロボット工学など、先端的研究分野を融合した領域で博士前期・後期課程の一貫教育プログラムを実施するためのカリキュラムを設計するなど、大学の年度計画の達成に貢献している。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8～10)	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、コニカミノルタ画像科学奨励賞および、第10回光都ビジネスコンペ in 姫路において優秀賞を受賞するとともに、生命ダイナミクスと大規模ネットワークWGでは、メンバーが中心となり、博士課程教育リーディングプログラム「ヒューマンウェアイノベーション博士課程プログラム」が採択されるなど、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11～16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流 【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、シンポジウム2回、技術交流会5回、講座(セミナー等)2回を開催し、共同研究実現に向けて検討を行うなど適切に実施している。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17～29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況 【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、研究科の間接経費を使い、大型研究の推進や研究科の研究環境の改善を図り、また第三期棟の計画・要求が新たに認められたほか、大学・企業の有識者7名を委員とした外部評価委員会が中心となり、外部評価を実施するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況	【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は特筆すべき進捗状況にあると判断できる。引き続き、現行の取り組みを維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、博士課程教育リーディングプログラムが採択されたほか、これまでの4件に加えて、2件の研究プロジェクトが新たに採択されるなど、情報科学の教育研究拠点として、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名:生命機能研究科

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、優秀な学生を集めるために、入試制度の抜本的改革を実施した結果、受験者数が約20%増え、入学者数も大幅に増加するとともに、情報通信研究機構・国際電気通信基礎技術研究所、理研生命システム研究センターとの連携により、多様な背景・専門性を持つ人材の登用を推進し、さらに、『春の学校』を開催し研究指向の高い学部生との対話を開始するなど積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、紫綬褒章、恩賜賞・日本学士院賞の受賞、科学技術分野の文部科学大臣表彰など特筆すべき成果を挙げるとともに、博士課程教育リーディングプログラム「ヒューマンウエアイノベーション博士課程プログラム」の採択や情報通信研究機構・国際電気通信基礎技術研究所との連携による「脳情報通信融合研究センター」の研究棟竣工への貢献、「卓越した大学院拠点形成支援補助金」の採択など、積極的に取り組み、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11～16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、研究科として獲得した複数の外部資金を有効活用することにより国際交流を推進し、結果として平成25年度入学の海外留学生が13名と、例年の数名に比べて大幅に増加するなど、適切に実施している。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17～29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、各種会議に関する事務処理の効率化を図るため、ペーパーレス会議を導入し、施設設備の他機関への貸出を行うことにより、オープンラボを効率的に運用するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、情報通信研究機構および国際電気通信基礎技術研究所との連携による「脳情報通信融合研究センター」の研究棟が竣工し、脳の高次機能解明を目指した研究が本格的に推進されたほか、入試方法を一新した結果、受験者数が約20%増え、入学者数が大幅に増加したことに加え、博士課程教育リーディングプログラム「ヒューマンウエアイノベーション博士課程プログラム」が採択されるなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名: 高等司法研究科

項 目		コ メ ン ト
1. 教育 (大学の年度計画: 1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、法科大学院を取り巻く社会情勢の変化に対応した選抜方法の見直しを行い、また、FDに教職員の殆どが参加するとともに、授業アンケートで評価の高い教員や他大学の教員の授業を見学し、それを各教員の授業に生かす取り組みを行うなど、授業改善に積極的に取り組んでおり、大学の年度計画の達成に貢献している。また、臨床法教育プログラムの構想の具体化を目指すなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、二国間交流事業共同研究の実施、研究推進のためのFD活動としての月例のランチミーティングの実施など積極的に取り組んでいる。また、すでに実施されているスタッフ・ミーティングに、共同研究の成果の共有という性格を加え継続するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11～16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、国際シンポジウムを含む公開講義を22回開催し、駐日ドイツ大使の講演会を開催するなど、国際的なセミナーを実施し、また経済産業省、特許庁、近畿経済産業局などと連携した産官学連携活動など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17～29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、年度当初に各計画の担当者が計画の実施のための行程表を入力し、行程表に従って計画内容を実施した場合には適宜それを入力するという試みを行い、10月の中間集約の段階で役立てるなど適切に実施している。また、進路別の修了生情報を研究科ホームページにおいて公開するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、入試の選抜方法の見直し、FDのさらなる充実など積極的に取り組み、大学の年度計画の達成に貢献している。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名: 連合小児発達研究科

項 目		コメン ト
1. 教育 (大学の年度計画: 1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、5大学を接続した遠隔講義システムを用いた講義を行い、加えて講義映像をアーカイブすることにより、自学自習環境を整備するなど、大学の年度計画の達成に貢献している。全導入科目(14科目)及び全演習科目(10科目)の授業アンケートを実施し、高い回収率(78.5%)を得るとともに、担当教員へのフィードバックと一部授業においては授業改善を要求するなど、積極的に取り組んでいる。また、5大学連合で新たに連合小児発達学研究科「学生相談体制」を設置し、各種悩みや相談、要望事項等に対応する体制を整えるなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、千葉大学及び福井大学が連合小児発達学研究科へ参画したことにより、より一層、子どものうつ病、養育者支援、認知行動療法に係る研究を推進し、その実践に取り組むことが可能となるなど、適切に実施している。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11～16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、注視点検出装置を用いた自閉症診断補助法の開発において、佐賀市の1.6歳時健診にて実装研究を開始し、また堺市、池田市などの自治体と協定を結び、発達障害児支援の問題点を指摘し、改善策を自治体に具申するとともに、自治体と協力し専門職、または市民向けにセミナー等を開催するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17～29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、平成23年度からの子どものこころの発達研究センターによる教育研究事業の5大学化に続き、5大学による連合小児発達学研究科を設置し、組織と事業の強化を図るなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、5大学による連合小児発達学研究科の設置、各大学を接続した遠隔講義システムを用いた講義の実施など、組織と事業の強化を図り、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名:微生物病研究所

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1~7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、免疫学フロンティア研究センターと連携し、著名な研究者による「感染症学・免疫学アドバンスセミナーシリーズ」を医学系、理学、薬学、生命機能の各研究科の大学院学生に月に1回の頻度で開講したほか、大学院高度副プログラム「感染症学・免疫学融合プログラム」を開講するなど、適切に実施している。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8~10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、遺伝子組換え動物を用いた生殖医学研究によって日本学術振興会賞を受賞するとともに、「感染症研究国際ネットワーク推進プログラム」や「感染症国際研究センター」の活動として、タイ、ベトナム、ウガンダでの熱帯感染症に関する国際共同研究を進めて不明疾患の解明に協力し、アフリカにおいて実施したマラリアワクチン(SE36)臨床試験では70%を超える発症防御効果を実証するなど、特筆すべき成果を挙げ、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11~16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、企業との共同研究10件、受託研究12件、特許出願件数9件、特許取得件数10件など積極的に取り組むとともに、タイ感染症共同研究センター、大阪ーマヒドン感染症研究センターに研究者を派遣し、タイ人研究者等を受け入れるなどの積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17~29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 該当なし。 【特記事項】 該当なし。 【留意事項】 該当なし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、共同利用・共同研究拠点の活動として、共同利用・共同研究課題の採択34件、共同利用・共同研究の受入機関数32件(のべ207人)、研究会・シンポジウム(国内・国外)14件(参加者数1,443人)を実施した。ベトナムとウガンダで発生した「皮膚疾患」及び「うなずき病」の要因を推定し、大半の患者の回復に寄与したため、ベトナム保健省から感謝状を得るなどの成果を上げ、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名:産業科学研究所

項 目		コメン
1. 教育 (大学の年度計画: 1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、(独)日本学術振興会「頭脳循環を加速する若手研究者戦略的海外派遣プログラム」に採択され、学生・若手研究者の長期海外インターンシップを実施し、また部局経費によりRA経費を倍増し、84%の博士後期課程の学生に対して経済的支援を行うなど適切に実施している。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、日本学士院賞の受賞、また、トポロジカル超伝導体候補物質を発見した研究成果が優れた学術誌(Physical Review Letters)誌に掲載され、Science誌のEditor's Choiceで紹介されたほか、イタリア応用オントロジー研究所、パリ南大学などとの国際共同研究の実施、特任教授を室長とする企画室の設置による所内横断的な外部資金獲得の支援、共同利用・共同研究拠点(5附置研担当分)への申請に関するホームページの整備など、積極的に取り組んでおり、大学の年度計画の達成に貢献している。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11～16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、産学連携体制を強化した結果、産学連携での共同研究として66件で約2.06億円、受託研究として39件で約7.75億円を得るとともに、特許権等の譲渡費として23件で約9,500万円、特許権等実施費として6件で787万円を得、新規のベンチャー企業2社を立ち上げ、また、(独)日本学術振興会の研究拠点形成事業、二国間交流事業に採択され、国際ネットワークの強化を推進するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17～29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、評価、広報、国際、財務、及び施設に係る企画業務補佐の実施のため、企画室に特任教員(教授)を採用し支援機能を強化するとともに、事務職員、技術職員のスキルアップを支援するため、「産研人材育成プログラム」をスタートさせ、まず、英語力強化のため、SANKEN English Caféを6回開催し、延べ65名が参加するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、ネットワーク型の大型設備活用型および共同研究型の共同利用・共同研究拠点の活動として、北海道大学、東北大学、東京工業大学、九州大学を加えた5つの附置研究所による「物質・デバイス領域共同研究拠点」を形成し、共同利用・共同研究課題の採択件数437件、共同利用・共同研究の受入機関数371機関(のべ3,952人)、研究会・シンポジウム国内21件・国外1件を実施した。附置研究所間アライアンスプロジェクトをとして、アライアンス連携研究を推進したほか、新たに2件の国際連携研究ラボを設置するなど積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名:蛋白質研究所

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1~7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、国際化拠点整備事業（大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業）による外国人留学生を18名受け入れ、博士課程教育リーディングプログラム「生体統御ネットワーク医学教育プログラム」を分担し、医学、薬学、理学等の枠を越え、医学領域と蛋白質科学領域の異分野融合を目指した研究者養成の教育を行ったほか、教育活動の実績を蛋白質研究所レポートに記載し、研究所の教育参画について意見を求めるなど、適切に実施している。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8~10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、網膜の発生と機能の基礎研究による大阪科学賞の受賞のほか、文部科学省の「創薬等支援技術基盤プラットフォーム事業」の実施機関に選定され事業を開始したことに加え、またテニュアトラック教員の最終評価を行い2名を准教授に昇任させるなど積極的に取り組んでいる。さらに、生体超分子複合体構造解析ビームラインへの高性能検出装置を設置するなど、特筆すべき成果を挙げ、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11~16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、先端核磁気共鳴装置群の産業利用支援プログラムについて中間評価でA評価（優れた事業であり、継続に値する）を受け、新たに高磁場・高感度固体NMRを中心とした装置群が平成24年度補正予算の設備整備費により処置され、先端研究基盤共用・プラットフォーム形成事業としてさらに展開させるなど、積極的に実施し、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17~29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、女性研究者の雇用ポジションの捻出や各種会議に関する事務処理の効率化を図るため、ペーパーレス会議の導入を行うなど、適切に実施している。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、大型設備活用型、研究資料提供型、および共同研究型の共同利用・共同研究拠点の活動として、共同研究員（59件）、ビームライン共同利用（59件）、NMR共同利用（10件）、国際共同研究（15件）の受け入れ、蛋白質立体構造データベース運営などの実績を上げている。また、新たに高磁場・高感度固体NMRを中心とした装置群が平成24年度補正予算の設備整備費により処置されるなど、積極的に取り組み、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名:社会経済研究所

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 該当なし。 【特記事項】 該当なし。 【留意事項】 該当なし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、グローバルCOEプログラム「人間行動と社会経済のダイナミクス」に基づき行動経済学の研究を推進する中で、選好に関する大規模アンケート調査に加え、多数の経済実験や神経経済学実験を実施するなど、大学の年度計画の達成に貢献している。さらに、産業組織の理論的分析研究によって日本学術振興会賞および日本学士院学術奨励賞を受賞したほか、国際的な学術誌に多数の論文を公刊するなど、成果を上げている。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11～16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、各種審議会や委員会に参加して、研究成果を活かして、経済政策等の企画・立案への助言、提言を行ったほか、法と経済学、行動経済学、エネルギー政策及び経済学に関する書籍を5冊刊行するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17～29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 共同研究型の共同利用・共同研究拠点の活動として、共同利用・共同研究課題を17件採択し、「危険回避度プロジェクト」、「公共政策プロジェクト」、「自信過剰プロジェクト」、「幸福度プロジェクト」などの行動経済学や公共政策などに関わる共同研究に積極的に取り組んでいる。また、グローバルCOEプログラム「人間行動と社会経済のダイナミクス」に基づき行動経済学の研究を推進する中で、選好に関する大規模アンケート調査に加え、多数の経済実験や神経経済学実験を実施するなど、特筆すべき取り組みを行っており、大学の年度計画の達成に貢献している。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名:接合科学研究所

項 目		コメ ント
1. 教育 (大学の年度計画: 1~7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、学界・産業界から4名の客員教授、19名の招へい教授および2名の招へい准教授を受け入れ、国際溶接技術者(IWE)コース等の研究所の講義科目やプロジェクト研究等を通じて、学生の専門教育・学際融合教育の充実を図り、また、同コースにおいて第4期生17名が本コースを修了し、全員が最終試験に合格してIWE資格を取得するなど、積極的に取り組み、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8~10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、日本溶接協会技術賞の受賞、「広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業ーカップリング・インターンシップによる実践型グローバル人材育成ー」プロジェクト(文部科学省)、「革新的新構造材料等技術開発(未来開拓研究)」(経済産業省)の採択、業績評価を踏まえた若手研究者への研究費の重点配分など、積極的に取り組み、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11~16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、工学研究科と溶接・接合に関する夏季大学を共同で開講するとともに、総長裁量経費による「東アジア接合研究連携拠点ネットワーク形成事業」を推進した結果、キングモンクット工科大学ノースバンコク校(タイ)等10機関との部局間学術交流協定の締結やジョイントセミナー"JWRI-UM Seminar 2012"を開催するなど、積極的に取り組み、大学の年度計画の達成に貢献している。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17~29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、各教員のテーマ、申請内容について具体的なアドバイスを行った結果、平成22年度に比較して科研費の採択率が24パーセントポイント向上した。平成24年度の外部資金の獲得額は10億円であり、第1期中期計画で目標に掲げた水準額である2億3千万円を大きく越え、また自己評価に加えて、国内外20名の有識者からなる外部評価委員会により部局独自の外部評価を実施し、客観的な評価を受けるなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は特筆すべき進捗状況にあると判断できる。引き続き、現行の取り組みを維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、共同研究型の共同利用・共同研究拠点の活動として、共同利用・共同研究課題286件、共同利用・共同研究の受入機関数83件、研究会・シンポジウム(国内・国外)8件を実施し、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名:低温センター

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、専任教員は、工学部・工学研究科、理学部・理学研究科等を兼務し、講義によって教育活動に協力しており、適切に実施している。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、低温工学を基礎とする安全な実験環境に関する研究や低温・強磁場下における物性研究などを精力的に行い、また本センター教員と理学研究科や極限量子科学研究センターの教員がメンバーとなり、本学「最先端ときめき研究推進事業」を推進し活発な研究活動を行う（学会発表数: 13件）など、適切に実施している。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11～16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 該当なし。 【特記事項】 該当なし。 【留意事項】 該当なし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17～29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、吹田分室、豊中分室ともに技術職員の定年退職等に伴う、新人職員の配置および着実な技術継承を行うとともに、豊中分室のヘリウム液化装置更新について平成26年度概算要求事項とすることを決定し、大学本部に關係資料を提出するなど、装置更新に向けた作業に着手するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、10月頃より日本国内でヘリウム不足が深刻化し、液体ヘリウムの安定供給に苦勞する中、ヘリウムガスのリサイクル利用を継続して促進することで、省資源や省エネに配慮しながら、安価で安定した液体ヘリウムの供給を行うなど、積極的に実施している。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名:超高压電子顕微鏡センター

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1~7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、基礎セミナー「目で観る物性論」を開講し、また高校生に対する学内施設見学会を9件実施するなど、適切に実施している。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8~10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、電子顕微鏡その場観察法による物質極微プロセスの解明に関して第9回本多フロンティア賞を受賞するとともに、「超高压電子顕微鏡連携ステーション(第Ⅱ期)」の活動において、次世代超高压電顕要素技術開発、ならびに5件の共同研究を実施したほか、新たにナノテクノロジープラットフォーム事業により研究支援活動に関する組織・運営体制を整備し、41件の課題を受け入れるなど積極的に取り組み、大学の年度計画の達成に貢献している。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11~16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、ナノサイエンスデザイン教育研究センター実施の「ナノ高度学際教育研究訓練プログラム」(社会人教育)に参画し、研究成果を社会に還元するなど、適切に実施している。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17~29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、300万ボルト超高压電子顕微鏡の更新に関して、平成24年度国立大学法人施設整備費補助金・基盤的設備等整備分「100万ボルト超高压電子顕微鏡」事業費が交付され、設備更新計画の1/2を実施することが認められるなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、電子顕微鏡その場観察法による物質極微プロセスの解明に関して第9回本多フロンティア賞を受賞したほか、「超高压電子顕微鏡連携ステーション(第Ⅱ期)」の活動において、次世代超高压電顕要素技術開発、ならびに共同研究の実施、さらに新たにナノテクノロジープラットフォーム事業により研究支援活動に関する組織・運営体制を整備し、41件の課題を受け入れるなど、積極的に取り組み、大学の年度計画の達成に貢献している。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名:ラジオアイントープ総合センター

項 目		コ メ ン ト
1. 教育 (大学の年度計画: 1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、施設等の管理点検を定期的に行い、放射線利用実習に良好な状況を保ち、理学、医学系、基礎工学研究科・学部の開講する学生実習・実験、基礎セミナーに施設、設備、装置を提供するなど、適切に実施している。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、吹田本館で共同利用申請件数27件、共同利用者数243人、豊中分館で共同利用申請件数13件、共同利用者数: 319人であり、また利用者向けの講習会を吹田本館では13回(受講者数135名)実施し、豊中分館では10回(受講者数78名)実施するなど、適切に実施している。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11～16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、豊中市および吹田市の消防署員への放射線安全教育講習会を計5回実施(受講者数計99名)するなど、適切に実施している。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17～29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、環境安全研究管理センター、安全衛生管理部と連携して、労働安全衛生法に基づき作業環境測定を実施し、その結果を関係部局にフィードバックするなど、大学の年度計画の達成に貢献している。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、環境安全研究管理センター、安全衛生管理部と連携して、労働安全衛生法に基づき作業環境測定を実施し、その結果を関係部局にフィードバックするなど大学の年度計画の達成に貢献している。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名:環境安全研究管理センター

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1~7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 該当なし。 【特記事項】 該当なし。 【留意事項】 該当なし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8~10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11~16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17~29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、ラジオアイソトープ総合センター、安全衛生管理部と連携して、労働安全衛生法に基づき作業環境測定を実施し、その結果を関係部局にフィードバックするなど大学の年度計画の達成に貢献している。また、薬品管理支援システム(OCCS)の管理、運営を行い、登録義務の通達・指導などを行った結果、学内登録薬品数が23万件(3月現在)まで増加(昨年22万件)するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、ラジオアイソトープ総合センター、安全衛生管理部と連携して、労働安全衛生法に基づき作業環境測定を実施し、その結果を関係部局にフィードバックするなど大学の年度計画の達成に貢献している。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名:国際教育交流センター

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、(独)日本学生支援機構(JASSO)の支援を受けたコンソーシアムSSプログラム「日韓学生会議」のコーディネートに加わるなど、大学の実績として評価できる。また、IRIS(留学生交流情報室)をベースに、3キャンパスで、留学生からの各種相談対応、留学生とその他一般学生との各種交流活動、留学生と地域との交流等を支援するなど、特筆すべき取り組みを行っている。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、文部科学省「留学生交流拠点整備事業」を関西大学と共同で申請し採択されたことに伴い、事務局を関西大学に置き、本学側からは本センター教員が中心となって運営委員会に参画するなど積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11～16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、ショートステイ日本語プログラム3コースを新設するとともに、入管法の改定をうけて、新規来日者向けオリエンテーション映像DVD(日・英、うち一部: 中・韓・タイ語)を改訂し、同ビデオをホームページ上にも掲載するなど積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17～29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 該当なし。 【特記事項】 該当なし。 【留意事項】 該当なし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、(独)日本学生支援機構(JASSO)の支援を受けたコンソーシアムSSプログラムとして行われた「日韓学生会議」のコーディネートに加わるなど、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名:生物工学国際交流センター

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1~7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、海外教育研究センター（バンコク教育研究センター）の支援を受け、グローバルコラボレーションセンターと応募した日本学生支援機構の「ショートステイ・ショートビジット」事業を実施するなど、適切に実施している。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8~10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、日本学術振興会「アジア研究教育拠点事業」並びに科学技術振興機構「地球規模課題対応国際協力事業」に従事し、タイ・マヒドン大学内に設けた東南アジア共同研究拠点を活用して学術論文18編を発表し、また、女性研究者としてとくに3名の外国人研究者を雇用するなど、積極的に取り組み、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11~16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、タイ国立遺伝子生命工学研究センター(BIOTEC)との部局間交流協定を締結し、「UNESCO Biotechnology school in Asia」に基づき、本学東南アジア共同研究拠点（マヒドン大学）を拠点としてカンボジア、ラオス、ベトナムからの参加者をタイ、インドネシアに派遣するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17~29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、旧棟の改修、新築を行い、本学の国際化の発展に貢献できる空間となるよう、平成25年度竣工予定の新棟に、海外大学拠点事務室（約50 m2）を設置するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、日本学術振興会「アジア研究教育拠点事業」、科学技術振興機構の「地球規模課題対応国際科学技術協力事業」、「UNESCO Biotechnology school in Asia」などの事業に積極的に取り組み、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名: 極限量子科学研究センター

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1~7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 該当なし。 【特記事項】 該当なし。 【留意事項】 該当なし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8~10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、グローバルCOEプログラム「物質の量子機能解明と未来型機能材料創出」の事業推進者としてプロジェクトを推進した結果、25編の論文と、60件の国際会議発表を行うなど積極的に取り組んでいる。また、強磁場施設を学内外の共同利用に供し、全体で43件ほどの共同研究を行うなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11~16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17~29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、学術会議マスタープランに掲載中の強磁場コラボラトリー計画を推進するため、高圧・強磁場複合極限施設整備のための補正予算12億円を獲得するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、学術会議マスタープランに掲載中の強磁場コラボラトリー計画を推進するため、高圧・強磁場複合極限施設整備のための補正予算12億円を獲得するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名:太陽エネルギー化学研究センター

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1~7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、博士後期課程学生7名を含む32名の学生を研究指導し、博士後期課程学生3名、博士前期課程学生9名、学部生8名に学位を取得させるなど、適切に実施している。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8~10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、可視光で駆動する光触媒系として貴金属ナノ粒子を用いる光触媒の効果及び設計指針を世界に先駆けて発表し、ルチル型二酸化チタン光触媒の酸素欠陥サイトを利用する高効率・高選択的な脱酸素反応を新規開発し、環境調和型光触媒材料の研究結果が商品化に結びつけられるなど、特筆すべき成果を挙げ、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11~16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、共同研究5件、受託研究6件、奨学寄附金9件を受け入れ、特許を7件出願するとともに、センター特任教授が開発した触媒が商品化され、市販されるなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17~29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、センターのホームページのリニューアルを実施し、広報を強化するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、センター特任教授が開発した触媒が商品化され、市販されるなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名:総合学術博物館

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、展覧会をはじめ、サイエンスカフェや自然観察会、小学生理科教室、講演会、高等学校等や外国賓客の団体見学など、広く社会に向けて様々な発信を行うとともに、新型基礎セミナー「実践的博物科学」の開講や各種団体の博物館見学の実施など積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、文化財科学への物理化学的手法の応用を進めるための「ナノスペースにおける簡単な吸着分子のダイナミクスに関する研究」のほか、「近世近代の大阪の美術史と社会との関連に関する研究」、「懷徳堂と絵画に関する研究」、「薬用資源の保全と活用に関する基盤研究」など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11～16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、館員の研究成果が展覧会に結実した第15回企画展「ものづくり 上方“酒”ばなし ―先駆・革新の系譜と大阪高工醸造科―」展を、文理融合型展覧会として開催し多大な成果をおさめるなど積極的に取り組んでいる。また、適塾記念センター、21世紀懷徳堂、各部局等と相互に連携を強化し、各種の講座やセミナーなどの催事を効率的に行い、取組件数、参加者数等の増加が見られるなど、大学の年度計画の達成に貢献している。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17～29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、自治体や国立公文書館などと連携し、特色ある展覧会や記念講演会等を実施するとともに、寄託された具体美術協会関係資料を、国内にとどまらず、海外美術館にも貸し出すなど大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、学内の各部局や学外の自治体や諸機関等と相互に連携を強化し、特色ある展覧会や記念講演会、各種の講座やセミナーなどを実施したことは、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名:保健センター

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1~7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、保健センターの学生相談室では、心理カウンセラーが約1,800件の相談に対応するとともに、学生支援ステーションの障害学生支援ユニットと協力し、学生支援ステーションの改組・拡充のための準備を進めるなど、大学の年度計画の達成に貢献している。また、発達障害学生支援のための体制整備を着実に進めるとともに、新入生健診において、特にアレルギー疾患に対し、多くの学生を対象に個別面談を通じて生活上のアドバイスをを行うなど、特筆すべき取り組みを実施している。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8~10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 該当なし。 【特記事項】 該当なし。 【留意事項】 該当なし。
3. その他 (大学の年度計画: 11~16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17~29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、健診時間の短縮、問診担当看護師等の削減、回答データ等収集作業の効率化及び正確なデータの入手など、学生健康診断において情報化及び効率化を図るため、平成24年度学生健康診断にWeb調査票システムによる問診を初めて導入するなど、積極的に取り組み、大学の実績に貢献している。 【留意事項】 教員基礎データの活用については、引き続きその実現に向けて努力された。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、発達障害学生への支援、アレルギー疾患への取り組みや学生健康診断にWeb調査票システムによる問診を初めて導入するなど、積極的に取り組み、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名: 臨床医工学融合研究教育センター

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1~7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、博士後期課程学生対象を対象とした外国人講師によるセミナーシリーズ(5回)を開催し、若手研究者間の実質的な共同研究を進展させ、また、高度職業人育成科の行う「クリニカルリサーチプロフェッショナル育成コース」を実施し、大学院高度副プログラムに参画するとともに、EUの標準教育プログラム(PhamaTrain)に準拠するよう充実させたほか、e-learningのコンテンツを新たに7プログラムリリースするなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8~10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、グローバルCOEプログラム「医・工・情報学融合による予測医学基盤創成」の最終評価が実施され、最も高い評価を得るとともに、さらにその成果を活かし、文部科学省特別経費「ハイブリッド臓器創成事業」を展開するとともに、企業10社との協同研究部門(次世代内視鏡治療学)を設置し、さらに平成25年4月より同(栄養デバイス未来医工学)の設置に向けて準備を進めるなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11~16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、医工情報連携シンポジウム6回(延べ544名参加)を実施したほか、5コース(18サブコース)の土曜講座を社会人延べ152名を含む延べ378名に提供するなど、適切に実施している。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17~29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、臨床医工情報学コンソーシアム関西において地域の大学、研究・教育機関と12回の会議を行うなど積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、高度職業人育成科の行う「クリニカルリサーチプロフェッショナル育成コース」を実施し、大学院高度副プログラムに参画するとともに、EUの標準教育プログラム(PhamaTrain)に準拠するよう充実させ、また、グローバルCOEプログラムの最終評価において最も高い評価を得る、企業10社との協同研究部門(次世代内視鏡治療学)を設置するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名:コミュニケーションデザイン・センター

項 目	コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1~7)	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、博士課程教育リーディングプログラム（超域イノベーション博士課程プログラム）の運営並びに基幹的科目及び履修生選抜において中核的な役割を果たしたことは、大学の年度計画の達成に貢献している。また、他部局と共同で実施したFD研修の全学への開放、学生参加のアートエリアB1の参加回数・参加学生の充実を図るなど積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8~10)	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、研究推進室を設け、部局内の共同研究および関連する活動の促進のために共同プロジェクトを募集し、重点的予算配分を行うなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11~16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流 【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、大学と企業の新しいタイプの産学連携モデルの構築を目的に、アサヒグループホールディングスと共同研究を行うなど、積極的に取り組んでいる。また、中之島の「アートエリアB1」で開催する「ラボカフェ」を81回行う（全参加者数のべ2,824名）など、適切に実施している。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17~29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況 【年度計画の達成状況】 平成24年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、全学教育推進機構の運営について、センター長が同機構企画開発部大学院横断教育部門長として関わるとともに、兼任教員として教員3名が参画するなど積極的に取り組んでいる。また、同機構の大学院横断教育部門においても大学院横断教育に関わる学際融合教育科目開設や諸課題の検討に深く係わるなど大学の年度計画の達成に貢献している。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況	【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、博士課程教育リーディングプログラム（超域イノベーション博士課程プログラム）の運営や全学教育推進機構の運営に深く関わるなど、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名:金融・保険教育研究センター

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、情報科学研究科、国立情報学研究所GRACEセンターとの協同で、文部科学省特別経費による人材育成事業「ソフトウェアイノベーション先導のための研究教育プログラムの開発」として高度副プログラム科目を新たに設置するなど、副専攻プログラム、高度副プログラム、科目等履修生高度プログラムに積極的に取り組んでおり大学の年度計画の達成に貢献している。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、大阪証券取引所からの寄附金によって設置された寄附研究部門において、デリバティブとリスク・マネジメントに関する先端的な研究を推進するとともに、その成果が金融市場の代表的リスク指標であるボラティリティ・インデックスの日本版としてweb上に公開されるなど、目覚ましい研究成果をあげている。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11～16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、経済産業省による高度金融人材育成事業への参加や、産業界と連携した教育研究活動を推進し多彩なセミナーを開催するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17～29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、ボラティリティ・インデックスの日本版を開発し、web上に公開するなど特筆すべき取り組みを行っている。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名:科学教育機器リノベーションセンター

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、機械工作ステューデントショップの利用件数1,243件、工作指導の回数24件の実績を上げるなど、適切に実施している。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、利用者向けの機器リユース講習会を開催するとともに、新たに10機種をリユース機器として登録し、合計80機種のリユース機器を学内共同利用に供する研究支援を行ったほか、革新的教育研究基盤機器開発整備事業の推進により、7プロジェクトの阪大「オンリーワン」手作り汎用性先端機器を完成し、共同利用による研究支援に向けた準備を行うなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11～16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17～29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、全学調査に基づいたリユース機器の充実や広報活動、講習会を積極的に行うことによって、利用実績も17,199件（前年度13,662件）と増加するなど、大学の年度計画の達成に貢献している。また、工作実習での安全講習会の開催（機械工作とガラス工作とで合わせて76回（567名））、技術講習会の開催（同3回（22名））、機械工作ステューデントショップの安全講習会の開催（73名）など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、全学調査に基づいたリユース機器の充実や広報活動、講習会を積極的に行うなど大学の年度計画の達成に貢献している。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名:グローバルコラボレーションセンター

項 目	コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1～7)	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、海外フィールドスタディを14プログラム実施するとともに、そのノウハウが博士課程教育リーディングプログラム「超域イノベーション博士課程プログラム」に提供されたほか、「未来共生イノベーター博士課程プログラム」に協力するなど、大学の年度計画の達成に貢献している。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8～10)	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、センターの国際協力グループが中心となって、SATREPS (JST-JICA) 「薬剤耐性細菌発生機構の解明と食品管理における耐性菌モニタリングシステムの開発」などの複数の国際共同研究の実施に積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11～16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流 【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、海外からの教員・研究員の招へい、海外フィールドスタディ、インターンシップの実施のほか、パラオ保健省（パラオ）、カントー大学農学・応用生物学部・水産学部（ベトナム）と、学術交流協定を締結し、研究プログラムや、海外フィールドスタディを連携して実施するなど国際交流活動に積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17～29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況 【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、センターの事業内容を焦点を絞って明確化するために組織改革を実施し、「国際協力」、「グローバル共生」、「海外体験型教育企画オフィス」の3つのグループからなる体制をとり、活動を開始するなど積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況	【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、海外フィールドスタディを計14プログラム実施し大学の国際化およびグローバル人材の育成に貢献するとともに、博士課程教育リーディングプログラムなど、他部局のプログラムへのノウハウの提供を進めるなど、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名: 日本語日本文化教育センター

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1~7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、プレースメントテストの判定基準を見直すため、ユーロセンター・ベルリン校に教員を派遣し、「ヨーロッパ言語参照枠(CEFR)」の運用方法に関する実態調査を行ったほか、春学期受入の国費学部予備教育留学生と、秋学期受入の国費日本語・日本文化研修留学生及び短期留学日本語日本文化特別プログラム留学生に対して、プレースメントテストの結果に基づき、指導教員・クラスアドバイザーによるガイダンス・履修指導を実施するなど、特筆すべき取り組みを行っている。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8~10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、科学研究費補助金の獲得実績が上がるなど積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11~16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、教育関係共同利用拠点の日本語連携教育事業として、留学生の受け入れや各種説明会を開催するなど、積極的な取組がなされている。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17~29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、学外の共同研究者が授業見学・教育実習指導・教員共同研修等で本センターを共同利用した際の利便性を高めるために、授業見学スペースを有するマルチメディア教室を開設するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、教育関係共同利用拠点の活動として、「日本語連携教育事業」、「教育実習指導事業」、「教員共同研修事業」の3事業を実施し、日本語既習者教育の充実を図るとともに、教育実習・授業研究の機会の提供を行ったほか、各種説明会、国際フォーラムなどを継続実施し、情報の共有化による大学間連携の強化を図るなど、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名:環境イノベーションデザインセンター

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1~7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、大学院高度副プログラム「環境イノベーションデザイン学」の充実により学生数が増加し、授業アンケート、学生からのヒアリングなどを通じて学生のニーズを把握し、カリキュラムや授業を改善したほか、他の教育プログラムへの参加支援を行うなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8~10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、概算要求プロジェクトに基づき、13の研究ユニットから構成される研究プロジェクトを始動、メゾ領域研究を推進したほか、女性研究員1名を雇用するなど、適切に実施している。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11~16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、吹田市と環境イノベーションデザイン研究に関する連携協定を締結し、共同研究・教育の開始準備を行うなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17~29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、環境エネルギー管理部と協働し、電力消費可視化システムやその分析などを通じて大阪大学の省エネ目標達成に貢献するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、授業アンケート、学生からのヒアリングなどを通じて学生のニーズを把握し、カリキュラムや授業を改善したほか、環境エネルギー管理部と協働し、電力消費可視化システムやその分析などを通じて大阪大学の省エネ目標達成に貢献するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名:ナノサイエンスデザイン教育研究センター

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、討論重視の土曜集中講義として、ナノテクノロジー社会受容特論、ロードマップとデバイス・システムのコンセプト作りに資するナノテクノロジーデザイン特論を社会連携DRTとして開講するとともに、企業コンソーシアムの企画委員会、および受講生派遣企業から個々の講義、カリキュラム全体の構成に対する要望とアドバイスを獲得し講義内容の変更の参考とするなど、大学の年度計画の達成に貢献している。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、学際萌芽研究訓練、産学リエゾンPAL教育訓練の2科目を開講し、主にナノラボにおいて学内外共同研究を推進するなど、大学の年度計画の達成に貢献している。また、産学連携コンソーシアムとの協力で情報交換会、セミナー、長期展望研究テーマ勉強会などを開催し、産学連携人材育成、研究情報交流の推進が加速し、新たに共同研究3件を得るなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11～16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、土曜集中講座に社会人60名が参加し、産学連携コンソーシアム企業会員27社を含む32社より74名が遠隔講義システムを用いた夜間講義を受講するなど、社会人を対象としたリカレント教育で大学の年度計画達成に貢献している。グローニンゲン大学と4回8コマの双方向講義に前年度を上回る双方の大学院生延べ約120名の参加を得るなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17～29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、センターを6つの部門制とし、役割分担の明確化を行うなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、産学連携コンソーシアムとの協力で情報交換会、セミナー、長期展望研究テーマ勉強会などを開催し、産学連携人材育成、研究情報交流の推進が加速し、新たに共同研究3件を得たほか、グローニンゲン大学と4回8コマの双方向講義に前年度を上回る双方の大学院生延べ約120名の参加を得るなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名: 知的財産センター

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、情報通信技術を活かした教育を提供するための環境整備を行い、知的財産学習用コンテンツを提供する情報基盤システム(Iprismシステム)を構築し、E-ラーニング知的財産法プログラム等のシステムを平成24年4月より試験運用開始するなど、特筆すべき取り組みを行っている。さらに、今年度新たに6科目を法学研究科知的財産法プログラム特別コース(社会人対象)に提供するとともに、顕著な開講実績を上げるなど成果が上がっている。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、科学研究費補助金、特許庁調査研究事業等の外部資金の獲得実績が上がったほか、若手研究者を中心とした知財研究会である智適塾を立ち上げ、8回開催するなど積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11～16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、産官学連携したシンポジウム、フォーラムを年間6回開催するなど積極的に取り組んでおり、センターの優れた研究成果を社会へ還元しただけでなく、知財教育への取組を内外に広くアピールすることができるなど、成果が上がっている。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17～29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、異なる学科の学生のニーズに合わせた教材作りに取り組み、「知的財産法入門」の完成のほか、「意匠法」の出版、「商標法」の仮出版、「特許法」の完成など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名:核物理研究センター

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1~7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、サイクロترون実験装置のビームタイムを教育用に割り当て、大学院生のみならず学部学生の教育にも貢献し、全国の大学・研究機関が協力して企画する各種スクールに積極的に参画し、貢献するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8~10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、不安定原子核ビームの開発、それによる不安定原子核の核構造研究の成果に対してフンボルト賞を受賞したほか、サブアトムック科学推進事業費、サブアトムック科学拠点事業などの大型プロジェクトの継続実施など、積極的に取り組み、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11~16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、「京」を含む「革新的ハイパフォーマンズ・コンピューティング・インフラ (HPCI)」に計算資源を提供し、戦略分野5の拠点として運営に協力するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17~29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、海外4名、国内5名の委員により国際外部評価を実施し、実績と今後の計画について高い評価を得たほか、夏場の電力使用量の多い実験を冬場にシフトし、電力使用量及び夏季ピーク電力の削減を図ることで、大阪府から「おおさかストップ温暖化賞優秀賞」を受賞するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、大型設備活用型および共同研究型の共同利用・共同研究拠点の活動として、共同利用・共同研究課題の採択21件、共同利用・共同研究の受入機関数150件(のべ830人)、研究会・シンポジウム(国内・国外)8件(参加者数713人)を実施し、「京」を含むHPCIに計算資源を提供し、戦略分野5の拠点として運営に協力するなど積極的に取り組み、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名:サイバーメディアセンター

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1~7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、8月より全学規模でBlackBoardR9(大阪大学CLE)の導入を行い、利用者講習会を実施するなどして、利用を促進するなど、積極的に取り組み、大学の年度計画の達成に貢献している。また、外国語教育、学習での使用に特化したLearning Management Systemが、学内約50クラス、約1,400名のユーザに使用されるとともに、学外の4大学で使用され、その運用を支援するなど、積極的に実施している。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8~10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、学際大規模情報基盤の中で、大規模計算機システムや可視化装置を活用し、ベクトル及びベクトル・スカラー混在計算の最適化技術、ベクトル・スカラー混成計算機連携運用技術、大規模データ可視化技術に関する5件の共同研究について成果を上げるなど、積極的に取り組み、大学の年度計画の達成に貢献している。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11~16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、「高校生のためのスーパーコンピューティング・コンテスト」を東京工業大学と共同開催し、本戦に出場した上位21チームのうち、西日本の11チームの支援を行うなど、適切に実施している。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17~29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、無線LANのアクセスポイントを84台増強し、合計で424台とし、学内の公共エリアのほぼ全てを対応エリアとするなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、ネットワーク型の「学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点」の取組として、受入機関数14機関(延べ47名)のほか、大規模計算機利用講習会を14回実施(受講者153名)し、学際大規模情報基盤共同利用・共同研究拠点第4回シンポジウム(参加者数209名)を開催するなど、積極的に取り組み、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名:レーザーエネルギー学研究センター

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1~7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、理学研究科が進める国際化拠点整備事業（大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業）の本拠をセンター内に設置し、国際物理コースの学生14名を対象に9科目の英語講義を行うとともに、7名の博士後期課程の学生を輩出し、共同利用・共同研究で90名の学生を受け入れるなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8~10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、協定の実働状況に合わせた24件の国際交流協定の維持と締結、19件の国際共同実験の実施、貢献賞、進歩賞、ベストポスター賞などの内部表彰の実施、レーザー研シンポジウム2012の開催など、積極的に取り組み、大学の年度計画の達成に貢献している。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11~16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、産学連携共同研究等を実施している企業から8名の社会人研究者を受け入れ、技術指導や専門知識の供与を行うとともに、海外研究拠点に学生を含む延べ100名の人材派遣を行い、また延べ7名を共同研究者として受け入れ、計9名の外国人客員教授を招へいするなど、産業界とも、国際的にも人材交流を積極的に実施している。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17~29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、過去3年のセンターの活動に関して、外部の専門家20名（内3名が国外機関研究者）を委員とする外部評価を実施するなど、適切に実施している。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、大型設備活用型の共同利用・共同研究拠点の活動として、「超高強度レーザーが拓く高エネルギー密度科学の戦略的研究拠点事業（H22-28）」を実施し、共同利用・共同研究課題の採択147件、共同利用・共同研究の受入機関数159件（延べ488名）、研究会・シンポジウム（国内10件、国外2件、参加者数781名）を実施するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名:免疫学フロンティア研究センター

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1~7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、センターの共用語である英語によるセミナーを計12回にわたり開催し、延べ450名以上の参加者を得るとともに、デュアルメンター制度を今年度から実施し、分野の異なる研究者をメンターとする若手研究者に対し、異分野融合研究推進のための経費支援を開始するなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8~10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、特筆すべき取り組みが行われており、計画は上回って達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、制御性T細胞による免疫応答制御に対して日本学士院賞が授与され、アレルギー反応の抑制因子同定の研究によって科学技術分野の文部科学大臣表彰・科学技術賞(研究部門)を受賞するなど特筆すべき実績を残している。また、免疫学・イメージング・バイオインフォマティクス各分野の研究推進及びそれらの異分野融合研究の推進、国際シンポジウムの開催、サイエンスカフェ等の広報活動、研究者の知財管理支援業務等の実施など、積極的に行っており、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11~16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、FIRSTプログラム審良プロジェクトにより、センター研究者を対象とした知財セミナーや特許検索セミナーを延べ5回にわたって開催し、研究者の知的財産に対する意識向上を図るなど、適切に実施している。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17~29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、WPIプログラム中間評価において受けた指摘事項を、適宜対策、改善を行うとともに、ホームページを、画像や動画を多用した視覚に訴える構成とし、研究成果等の迅速な情報発信に努めるなど適切に実施している。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、日本学士院賞や科学技術分野の文部科学大臣表彰・科学技術賞(研究部門)を受賞するなど特筆すべき実績を残しており、大学の実績として評価できる。また、国際シンポジウムやセミナーの開催、サイエンスカフェ等の広報活動、研究者の知財管理支援業務等の実施など、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名: 全学教育推進機構

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、大学院高度副プログラム、副専攻プログラムとしては、4つの副専攻プログラムと42の高度副プログラムの提供があり、ほぼ全ての研究科から延べ895名（副専攻：176名、高度副：719名）の学生の受講があったことなど成果が上がっている。また、各プログラムにおける教育内容のより一層の充実を図るため、科目開講権の無い部局が独自の科目を新設する場合の受け皿として、大学院横断教育科目に新たな科目区分「学際融合教育科目」を設置し、平成25年度からの運用開始の準備を行うなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
3. その他 (大学の年度計画: 11～16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17～29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、学生への情報提供を充実するため、機構ホームページに「学生向け情報ページ」を新設し、学生向け情報を集約し、情報発信の強化を図るなど適切に実施している。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、学部初年次から大学院までの教養教育のさらなる充実、各部局を中心とした教育プログラムによる教育改革の全学的な展開、大学内の教育資源を活かした語学教育の充実、教育の質保証に向けた学習機能の強化等を図り、大学として組織的に教育を推進することに貢献し、大学の実績として評価できる。 【留意事項】 特になし。

達成状況評価書(平成24年度)

部局名:学際融合教育研究センター

項 目		コメント
1. 教育 (大学の年度計画: 1～7)	教育に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、積極的に取り組んでおり、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 平成24年度は、教育プログラム開発のサポートを行い、1つの副専攻プログラムと6つの高度副プログラムが開発されたこと、プログラム合同ガイダンスの実施、ガイドブックの全学配布を行うとともに、高度副プログラム受講生へのアンケートやインタビューを実施するなど、積極的に取り組んでいる。また、開発した成績分析ツールを用いて、過去の高度副プログラム修了生の成績(GPA)を求め、非受講生の成績と比較して修了生の成績が優れていることを明らかにするなど、積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。
2. 研究 (大学の年度計画: 8～10)	研究に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 該当なし。 【特記事項】 該当なし。 【留意事項】 該当なし。
3. その他 (大学の年度計画: 11～16)	(1) 社会連携、社会貢献 (2) 国際交流	【年度計画の達成状況】 該当なし。 【特記事項】 該当なし。 【留意事項】 該当なし。
4. 業務運営以降 (大学の年度計画: 17～29)	業務運営全体に関する年度計画の達成状況	【年度計画の達成状況】 平成24年度は、適切に実施しており、計画は達成されていると判断できる。 【特記事項】 特になし。 【留意事項】 特になし。
5. 全体の項目に関する達成状況		【中期計画の達成状況】 中期計画の達成に向けて、年度計画は順調に遂行されていると判断できる。引き続き、現行の取組を維持するよう期待する。 【特記事項】 平成24年度は、学際的な教育プログラムの開発、周知、実施、効果の検証に積極的に取り組んでいる。 【留意事項】 特になし。